



3月の行事といえばひな祭りですね。  
お雛様を飾っているご家庭もあるかと思います。

桃の節句とも呼ばれますが、もともとは旧暦の3月3日（現在の4月ごろ）の行事で、桃の花が咲く時期であったため。

明治の改暦以降はグレゴリオ暦の3月3日に行われることが一般的ですが、東北・北陸など一部の寒い地域では、今でも旧暦で行うところがあるそうです。

起源は諸説ありますが、平安時代に紙で作った人形を形代として枕元に置いて、その後川に流して厄払いする習慣があり、当時は乳幼児の死亡率が高く、親は必死の思いで子の成長を願ったことでしょう。本来は、男女の区別なく行われたものが、貴族の子女のひな遊びと紐づけられて、女の子の健やかな成長を祈る行事となりました。

かつては嫁入り道具の一つとして母方の実家から送られることも多く、特に昭和の高度成長期は7段飾りなどが人気でしたが、現代は省スペースのものや吊るし雛などが主流のようです。

飾り方も、もともと日本では左（向かって右）が上位なので、男雛も向かって右にいたのですが、明治の文明開化の時に西洋に倣って、向かって左に飾るようになったり、道具の種類なども関西と関東では違ったり、時代や地域によって違いがあります。

早く片付けないと婚期が遅れるという俗説や、良縁を願ってハマグリの吸い物を供すなど験を担いでの風習がたくさんありますが、すべて子の幸せを願ってのこと。あまり囚われずに楽しめるといいですね。

参考 : Wikipedia

